

19

九州大学医学部・日本甲状腺学会共催 「橋本病百周年記念事業」報告

佐藤 裕

九州大学医学部 橋本病百周年記念事業組織委員

九州大学医学部の前身である福岡医科大学第一回卒業生である橋本策（はかる）が、後に「橋本病」という冠名病名で呼ばれるようになる「リンパ腫性甲状腺腫（Struma lymphomatosa）」を報告して百年目に当たる平成24年（2012年）12月1日、「橋本病百周年」を記念する講演会と式典が、アクロス福岡・福岡国際会議場において開催された。国内外から多くの研究者が参加して、午後4時から記念式典・講演会が始まった。まず記念式典が執り行われ、橋本策が入局した三宅外科（卒後橋本策が師事し、策に甲状腺腫の研究を命じた主任教授の三宅速は、「ミクリッチ病」を報告した Johan von Mikulicz-Radecki のもとに留学した）の流れを汲む九州大学第一外科（現 臨床・腫瘍外科）の田中雅夫教授の Opening Remark に始まり、九州大学総長有川節夫氏、日本医学会会頭高久史磨氏、来賓の Wilmar Wiersinga アムステルダム大学教授、そして1992年に「橋本病80周年記念国際シンポジウム」を主催した長崎大学名誉教授長瀧重信氏からの祝辞と続いた。引き続いて講演会に移り、田中雅夫教授が「橋本病の歴史：リンパ腫性甲状腺腫から冠名病名橋本病への道のり（History of Hashimoto Disease: Since its beginning as Struma lymphomatosa to the establishment of a new diagnosis as Hashimoto Disease）」と題した基調講演をした後、国内外から招聘した研究者の橋本病と自己免疫に関する講演と続いた。甲状腺に関しては、アメリカ Rhode Island 大学の Leslie J. De Groot 教授から「The Expanding Spectrum of Hashimoto's Disease / Autoimmune Thyroiditis」、網野信行大阪大学名誉教授（現 神戸市 隈病院）から「Hashimoto's thyroiditis and postpartum autoimmune disease」と題した講演があった。途中、Doniach 博士とともに橋本病が自己免疫疾患であることを示した Ivan M Roit 教授（Middlesex 大学腫瘍研究センター長）から、「Discovery of Autoimmunity in Hashimoto Disease」と題したメッセージが提示された。ご高齢のため来日が叶わなかった Roit 教授からのメッセージには、Doniach 博士とともに橋本病患者の血清中に抗サイログロブリン抗体を見出していった研究過程が簡潔に述べられていた。最後に、熊沢浄一前九州大学医学部同窓会会長が、「国内外から数多くの研究者が集ってこういう記念式典と国際シンポジウムが、橋本策が学んだ九州大学のある福岡の地で開催されたことは、九州大学は言うに及ばず橋本策を輩出した医学部の同窓会にとっても大変喜ばしいことであり、国内外から参加された多くの研究者の方々々に心より感謝申し上げる」という主旨の閉会の辞を述べて、閉会となった。この記念式典に先立って「甲状腺自己免疫に関する国際シンポジウム」が開催され、最新の知見に関する発表がなされた。また、11月29日と30日には同じ会場にて久留米大学医学部代謝・内分泌学 廣松雄治教授を会長として第55回日本甲状腺学会が、ついで12月2日から4日まで九州大学笹月健彦教授をオルガナイザーとして、「自己免疫疾患の病因と治療に関する国際シンポジウム」が開催され、ここにおいても橋本病をはじめとする自己免疫疾患（Autoimmunity Disease）に関する最新の知見が発表されるとともに、熱い議論が交わされた。